

都市再生整備計画

こまきせんえんせん
小牧線沿線地区（第4期）

あいちけん こまきし
愛知県 小牧市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	愛知県	市町村名	こまきし 小牧市	地区名	こまきせんさんせん 小牧線沿線地区(第4期)	面積	820	ha	
計画期間	令和 7	年度 ～	令和 11	年度	交付期間	令和 7	年度 ～	令和 11	年度

目標
大目標:安全・安心で快適な居住空間の創出 目標1:多様なニーズに対応した良好な住環境の形成による人口定着 目標2:災害に強い安全・安心なまちづくり 目標3:公益施設整備による暮らしやすいまちづくり
目標設定の根拠
都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考えを含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) 本市は、昭和30年1月に小牧町・味岡村・篠岡村の合併により誕生し、昭和38年の北里村との合併により、現在の市域となった。 昭和40年代には、小牧インターチェンジの完成をきっかけに、本市は名神・東名高速道路、中央自動車道の3大ハイウェイの結節点となるとともに、県営名古屋空港の開港により中部における陸空の交通要衝都市となった。さらに、昭和47年に桃花台ニュータウンが新住宅市街地開発事業に着手するなど東西方向に市街地が広がり、平成10年代には、名古屋と小牧インターチェンジを直結する名古屋高速道路11号の開通や、名古屋鉄道小牧線と名古屋市営地下鉄平交通駅までの連絡線が開通し、交通利便性は著しく向上した。 また、これまでの本市におけるまちづくりは、小牧市総合計画や小牧市都市計画マスタープラン等に基づき、人口増加傾向の中でも中期的な視点から自家用車に頼らない移動手段の確保や鉄道駅を中心に日常的な生活圏がコンパクトにまとまった都市構造への転換等を都市づくり上の主要課題としてきた。 しかしながら、自動車交通を中心とした交通要衝都市として発展するにつれ、自動車交通への依存がさらに加速し、ロードサイドでの開発も進展した。そのため、都市機能の郊外へのスプロール化が進み、近年、名古屋鉄道小牧駅を中心とした中心市街地では空洞化が誘発され、都市としての求心力も低下しつつあった。 これらの課題解決や将来的な人口減少に対応した持続可能なまちづくりに向けて、従来の都市の拡大・成長に対応する都市づくりの方向性を本格的に転換し、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の考えのもとコンパクトなまちづくりを進めてきた。 具体的には、都市計画マスタープランの中間見直しを行うとともに、立地適正化計画を策定し、都市マスタープランで位置付けた中心拠点及び地域拠点、都市的投資が行われた市街地とそれらとアクセス性が高い公共交通軸の沿線等を「居住誘導区域」とし、土地地区画整理事業や交通結節点整備、定住促進策を実施した。この結果、新築着工は順調に伸び、市の人口が減少に転じる中でも小牧線沿線地区内の居住人口は横ばいに移移している。 本市は引き続き、人口減少をできる限り緩やかにすることをめざしており、名鉄小牧線沿線においては、地域拠点としての交通利便性を活かし、一層の人口集積を図るため、主に土地地区画整理事業などの生活基盤整備を継続的に実施し、さらなる良好な住環境形成を進める。 また、市街地でも進行する高齢化や若年層の定住促進に対応するため、地域コミュニティの維持・活性化の拠点となる公園や誘導施設(教育文化施設)(第一こども園(仮称))を整備することで、子育て世代から高齢者まですべての居住者が暮らしやすい安全・安心で快適な居住空間を創出する。特に誘導施設(教育文化施設)は立地適正化計画において「都市機能誘導区域」の高次都市サービス誘導区域に位置づける誘導施設として位置付けられており、子育て支援機能施設の拡充を図ることで、子育て世代を中心とした若年層の定住を促進するまちづくりをめす。 さらに、自動車交通に過度に依存しない、歩いて暮らせる徒歩生活圏の形成を図ると同時に、公共交通軸を中心とした交通利便性を向上するため、名鉄小牧駅周辺の整備により、交通結節機能を強化する。周辺の市街地は交通安全性の確保に加え、近年頻発する自然災害へ対応するため、住民の一次避難場所となる公園整備により、全ての居住者が安心・安全に暮らすことができるまちづくりを進める。
まちづくりの経緯及び現況
本地区は、本市を南北に縦断する名鉄小牧線沿線の6つの駅(田県神社前駅、味岡駅、小牧原駅、小牧駅、小牧口駅、間内駅)を含み、本市の中心市街地である名鉄小牧駅周辺と鉄道や巡回バスなどの公共交通機関で結ばれるエリアで構成されている。また、地区内北部には奇祭で全国的に知られる田縣神社や県指定文化財の熊野神社の五枚岩がある岩崎山を有しており、市外に誇れる本市独自の歴史・文化を体感することができる。 これまで本地区では、鉄道沿線であり、本市の中心市街地である中心拠点区域を含む立地と歴史・文化の特長を活かし、歴史文化や緑地空間を活かした良好な住環境の実現、中心市街地の活性化、地域コミュニティの醸成、生活拠点形成に向けた行政と住民の協働のまちづくりや個性と魅力あるまちづくりを目指し、平成16年度～20年度、平成21年度～25年度の2期に渡って「小牧南地区」、平成17年度～21年度まで「味岡地区」および「小牧山周辺地区」、平成22年度～26年度まで「小牧線沿線地区」と都市再生整備計画を策定し、各種事業に取り組んできた。これらの事業では、小牧南土地地区画整理事業、小牧岩崎山前土地地区画整理事業、小牧文津土地地区画整理事業等による人口定着の促進や、住民参加による調整池の多目的利用や公園整備をした地域における住民主体のまちづくりの実現、市道小牧市之久田線、市道宮前4号線の中心市街地間を結ぶ幹線道路の整備によるアクセスの向上、上新町会館等のコミュニティ施設の整備による住民の地域活動の促進等の効果が現れている。 平成27年度～令和元年度の「小牧線沿線地区」都市再生整備計画では、人口定着が進む一方で人口増加に伴う地域コミュニティ施設の不足等、人口定着と合わせた基盤整備に遅れが見られる点【良好な住環境の形成による人口定着】や、東日本大震災を教訓とした防災対策の重要性が再認識されていることから、さらなる狭あい道路の解消や安全・安心な公共空間の確保が求められている点【災害に強い安全・安心なまちづくり】、市街地における高齢化が進行しており、自動車交通に過度に依存しない、歩いて暮らせる徒歩生活圏の形成を図るとともに、公共交通軸を中心とした安全、快適な市街地の形成が急務となっている点【自動車に過度に依存しない歩いて暮らせるまちづくり】といった課題を踏まえて、小牧南土地地区画整理事業、小牧岩崎山前土地地区画整理事業及び小牧文津土地地区画整理事業の継続的な推進や駅前広場整備を実施し、人口定着や自動車に過度に依存しないまちづくりを進めてきた。また、平成27年度～令和2年度の「小牧駅周辺地区」都市再生整備計画では、公共交通の結節点であるとともに本市の中心市街地である中心拠点区域において、広域的な都市機能の集積を図るため、子どもから高齢者までが利用する本市の中央図書館や本市の医療の中心である市民病院の整備に加え、本市のこども・子育て施設の中心を担う包括センターを整備することにより、魅力的で持続可能なまちの形成、公共交通の利用促進を図ってきた。令和2年度～令和6年度の「小牧線沿線地区」都市再生計画では、引き続き【良好な住環境の形成による人口定着】【災害に強い安全・安心なまちづくり】といった課題を解決するべくまちづくりを行なうと共に、第3老人福祉センターの整備することにより、市内の高齢者のみならず市内外の一般来訪者の利用も見込み、世代交流機能を持たせ、高齢者の健康増進や生きがいのある生活環境の整備をより強化し、かつ地域活性化を図ってきた。 一方、本市では、将来的な人口減少に対応した持続可能なまちづくりに向けて、これまでの都市の拡大・成長に対応するような都市づくりの方向性を転換し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えのもとコンパクトなまちづくりを進めていくために、都市全体を見渡したマスタープランである「小牧市立地適正化計画」を策定し、その計画の中で、『誰もが暮らしやすい生活環境の実現に向け、地域コミュニティの維持・活性化などを図るため、「就労世代(生産年齢人口)なかでも、若年世代(子育て世代、単身者)」の定住促進を進める』ことをまちづくりの方針として設定するとともに、小牧市都市計画マスタープランにおいて地域拠点として位置づけられている地域などを「居住誘導区域」に位置づけ一定の人口密度を維持することを掲げている。 こで、立地適正化計画の都市機能誘導区域に含まれる「小牧線沿線地区(1期計画・2期計画・3期計画)」および「小牧駅周辺地区」の成果や事業後の課題を概観すると、成果としては、良好な住環境整備を進めたエリアを中心に人口定着に一定の効果がみられた他、公共交通の利用者が増加する等、「コンパクト・プラス・ネットワーク」に基づく、本市のまちの骨格が形成されてきていることが挙げられる。一方、事業後(現在)の課題としては、同じ都市機能誘導区域内においても、未だ狭あい道路が多く建物の更新も活発ではない上、オープンスペースが無い等、住環境整備が必要不可欠なエリアが残っていることや、本市が立地適正化計画で目標として掲げている「地域コミュニティの維持・活性化」を促進させるための拠点(住民同士が日常的に直接交流する場等)が充足していないこと等が挙げられる。また、代表交通手段は自動車が多く、公共交通の利用促進を図る必要がある。 これらのことを踏まえて、立地適正化計画で定める都市機能誘導区域(日常生活サービス誘導区域)のうち、市民生活を営む上で利便性の高い公共交通軸となる小牧線沿線及び中心拠点区域を一体的に捉え、日常生活に必要な都市機能を集積し、防災面等で課題のあるエリア(土地地区画整理事業未施行エリア)の良好な住環境形成整備を進めるとともに、地域コミュニティの維持・活性化のための拠点となる公園や教育文化施設(良好な保育環境機能を持つ施設)を整備することで、これまでの都市再生整備計画の効果を活かした、より居住者が暮らしやすい(居住者同士が暮らしやすさを高めている)、安全・安心で快適な居住空間を創出する必要がある。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	愛知県	市町村名	こまきし 小牧市	地区名	こまきせんえんせん 小牧線沿線地区(第4期)	面積	820	ha	
計画期間	令和 7	年度 ～	令和 11	年度	交付期間	令和 7	年度 ～	令和 11	年度

課題 ① 地域特性を活かした居住環境の整備・改善 市北部及び南部の住宅市街地で継続中の土地区画整理事業を始めとする基盤整備を早期完了させるとともに、公益施設を効果的に配置することにより、これまでの効果を継続して高め、鉄道沿線部での人口定着を継続させる必要がある。 ② 都市基盤整備と地域コミュニティの強化 大規模災害への備えから、都市基盤整備等により様々な観点からの安全・安心なまちづくりを進める必要がある。また、日頃からの防災活動や災害時には、共助による安全確保が欠かせず、日頃からの地域コミュニティの形成が重要となる。特に土地区画整理事業等により新たな定住促進を図ってきた本地区では、住民同士が身近で日常的に直接交流する場等を整備し、地域コミュニティの維持・活性化を促進させるための拠点とすることが必要である。 ③ 効果的な公益施設整備による暮らしやすさの向上 本地区では、地域拠点として人口集積を図ることが求められる地区であり、若年層から高齢者まで幅広い年齢層の居住ニーズに対応する公益施設の効果的な配置が必要である。特に若年層の定住促進を図るためには、名鉄小牧線沿線という立地を活かし、共働き世帯でも安心して子育てできる環境整備が必要である。
将来ビジョン(中長期) ●小牧市まちづくり推進計画(第2次基本計画) まちづくりの機軸の一つに掲げる「魅力・活力創造都市」を目指すため、“「住みたい」「働きたい」「訪れたい」魅力あふれる小牧の創造”を実現する事業を進める。 ●小牧市立地適正化計画 『誰もが暮らしやすい生活環境の実現に向け、地域コミュニティの維持・活性化などを図るため、「就労世代(生産年齢人口)なかでも、若年世代(子育て世代、単身者)」の定住促進を進める』ことを方針とした都市づくりを行う。 ●小牧市都市計画マスタープラン 鉄道駅周辺等の地区拠点やコミュニティ地区を中心に、日常的な暮らしやすさが確保された集約型の市街地を形成する。また、自転車や徒歩、公共交通を重視した、自動車に頼らないで暮らせる都市づくりを行う。 ●小牧市地域公共交通網形成計画 「地域の活力と交流を育み、地域を支える持続可能な交通体系」を基本理念として、集約型市街地形成を誘導し、過度に自動車に依存することのない暮らしを実現すべく、公共交通による最低限の移動が確保され、さらに市民が進んで公共交通を活用し交流することにより、必要な公共交通ネットワークを維持・存続する持続可能な交通体系の構築を目指す。

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方 本市では、名古屋鉄道小牧線を中心に商業、住居が並び、その外縁に工業系の用途を都市計画で定め立地誘導を図っており、小牧駅周辺を中心とした中心拠点区域では、市役所や市民会館、市民病院、学校、郵便局、税務署等の公共機関が集積しており、今後もこまき巡回バスの再編を行いながら、公共交通の利便性を活かし、市内外から多くの来街者を呼び込むとともに、自動車に過度に依存しない都市構造の構築を図るため、医療・福祉、教育文化、社会福祉等の都市機能を整備・維持し、まちの魅力向上と賑わいの創出を図るものである。名鉄小牧線沿線部においては、これまでも土地区画整理事業を実施する等、良好な住環境整備を進めさらなる居住の促進を図る。また、今後のまちの地域コミュニティの維持・活性化を促進させるため、拠点となる公園や交流施設などを整備し、公共交通軸を中心としたコンパクトな市街地の形成を進める。 都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 名鉄小牧線を中心とする市内で最も保育需要の高い中部地区において、園舎の老朽化等の課題を抱える市立第一幼稚園敷地を活用し、市立第一幼稚園と近接する市立大山保育園を合築し、(仮称)第一こども園を整備する。保育需要に応じた受け皿の確保と良好な保育環境の確保を目指し子育て世代の定住を図る。 都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等 道路：小牧文津地区((都)文津循環1号線ほか2路線)：土地区画整理事業の継続実施により、これまで進めてきた生活基盤のさらなる形成を図る。 公園：町屋公園ほか4公園・公園等の施設整備の実施により、これまで進めてきた生活基盤のさらなる形成を図る。 地域生活基盤施設(地域防災施設)松林東公園ほか1施設：公園との同時整備により災害に対する意識を高めるとともに地域の活性化と安全・安心な生活環境を構築する。 地域生活基盤施設(地域防災施設)文津1号調整池：災害に対する意識を高めるとともに地域の活性化と安全・安心な生活環境を構築する。 誘導施設(教育文化施設)第一こども園(仮称)：保育需要に応じた受け皿の確保と良好な保育環境を構築する。 土地区画整理事業(小牧文津地区、小牧岩崎山前地区、小牧南地区)：土地区画整理事業の継続実施により、これまで進めてきた生活基盤のさらなる形成を図る。
--

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
計画区域内居住率	％	計画区域内の居住人口／市全体の人口×100	良好な住環境形成による人口定着の達成状況を計画区域内居住率の変化で評価する。	32.7	R6	33.4	R11
公園誘致圏カバー率	％	計画区域内都市公園の誘致圏面積／計画区域面積×100	一次避難場所や防災訓練の場、地域コミュニティ形成の場として住民利用ができる公園誘致圏のカバー率により災害に強い安全・安心なまちづくりの達成状況を評価する。	62.7	R6	67.8	R11
計画区域内の子どもの人口	％	計画区域内の15歳未満の居住人口／計画区域内の居住人口×100	公益施設整備による暮らしやすいまちづくりの達成状況を、子育て世帯割合(子どもの割合)の変化で評価する。	12.8	R6	11.5	R11

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【多様なニーズに対応した良好な住環境の形成による人口定着】 ・土地区画整理事業の継続実施及び公園等の施設整備の実施により、これまで進めてきた生活基盤のさらなる形成を図る。 ・これまで本市が進めてきた取り組みによって交通利便性が高まっている都市基盤を活かし、名鉄小牧線沿線の人口定着を継続させる。 ・名鉄小牧線を中心とする市内で最も保育需要の高い中部地区に、保育需要に応じた受け皿の確保と良好な保育環境の形成を図る。		■基幹事業 ・道路：小牧文津地区((都)文津循環1号線ほか2路線)) ・公園：町屋公園 ・公園：松林東公園 ・公園：岩崎山公園 ・公園：うたず西公園 ・公園：池田公園 ・誘導施設(教育文化施設)：第一こども園(仮称) ・土地区画整理事業：小牧文津地区 ・土地区画整理事業：小牧岩崎山前地区 ・土地区画整理事業：小牧南地区 ○関連事業 ・土地区画整理事業：小牧文津地区 ・土地区画整理事業：小牧岩崎山前地区 ・土地区画整理事業：小牧南地区 ・街区公園整備事業(ワークショップ)：町屋公園外3公園 ・小牧駅周辺整備事業：小牧駅前広場等 ○提案事業 事業活用調査：事業効果分析調査
	【災害に強い安全・安心なまちづくり】 ・地域の特性に応じた公園を整備し、ワークショップにより、市民活動を支援することで、災害に対する意識を高めるとともに地域の活性化と安全・安心な生活環境を構築する。 ・集中豪雨などによる内水被害を軽減するため、河川の流下能力を向上させるための整備と貯留槽を整備する。 ・土地区画整理事業の継続実施により、安全・安心な生活環境を構築する。 【地域コミュニティの維持・活性化による誰もが暮らしやすいまちづくり】 ・地域コミュニティの維持・活性化を促進させるため、住民同士が日常的に直接交流できる場となる公園を整備するとともに、その活用を促進することで地域コミュニティの維持・活性化につなげる。	■基幹事業 ・道路：小牧文津地区((都)文津循環1号線ほか3路線)) ・公園：町屋公園 ・公園：松林東公園 ・公園：岩崎山公園 ・公園：うたず西公園 ・公園：池田公園 ・地域生活基盤施設(地域防災施設)：松林東公園 ・地域生活基盤施設(地域防災施設)：うたず西公園 ・地域生活基盤施設(地域防災施設)：文津1号調整池 ○関連事業 ・土地区画整理事業：小牧文津地区 ・土地区画整理事業：小牧岩崎山前地区 ・土地区画整理事業：小牧南地区 ・小牧駅周辺整備事業：小牧駅前広場等 ○提案事業 事業活用調査：事業効果分析調査
	【公益施設整備による暮らしやすいまちづくり】 ・子育て世代にとって居住場所を決める際の重要な要素であり、多様化する保護者の子育てニーズ対応しつつ、総合的な子育て支援施設として、認定こども園を整備することで、若年層の定住促進を図る。	■基幹事業 ・公園：町屋公園 ・公園：松林東公園 ・公園：岩崎山公園 ・公園：うたず西公園 ・公園：池田公園 ・誘導施設(教育文化施設)：第一こども園(仮称) ○関連事業 ・事業活用調査：街区公園整備事業(ワークショップ) ○提案事業 事業活用調査：事業効果分析調査
その他		
○まちづくりの住民参加 ・公園整備等について、計画段階からワークショップ手法による住民参加を行い、施設内容だけでなく、施設の維持・管理についても住民自らが実施する方策と体制づくりを住民主体で実施する。 ○交付期間中の計画の監理 ・交付期間中は、都市整備課が中心となり、定期的に事業進捗状況や、事業進捗上の問題点について関係各課と連携して確認することにより、事業遅延等のリスクを削減させる。		

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(都市構造再編集集中支援事業)

様式(1)-④-1

交付対象事業費	2,435.9	交付限度額	1,217.9	国費率	0.500
---------	---------	-------	---------	-----	-------

(金額の単位は百万円)

基幹事業																
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	交付期間内		交付対象 事業費	費用便益比 B／C	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分			
道路		小牧文津地区((都)文津循環1号線ほか2路線)	小牧市	直	3,000m	H4	R9	R7	R9	2,901.7	35.0	35.0	0.0	35.0	—	
公園		町屋公園	小牧市	直	1,500m ²	R7	R7	R7	R7	44.0	44.0	44.0	0.0	44.0	—	
		松林東公園	小牧市	直	3,200m ²	R7	R7	R7	R7	62.0	62.0	62.0	0.0	62.0	—	
		岩崎山公園	小牧市	直	27,000m ²	R7	R10	R9	R9	31.0	31.0	31.0	0.0	31.0	—	
		うたず西公園	小牧市	直	2,800m ²	R9	R9	R9	R9	67.0	67.0	67.0	0.0	67.0	—	
		池田公園	小牧市	直	1,200m ²	R10	R10	R10	R10	35.0	35.0	35.0	0.0	35.0	—	
古都保存・緑地保全等事業																
河川																
下水道																
駐車場有効利用システム																
地域生活基盤施設	地域防災施設	松林東公園(耐震性貯水槽)	小牧市	直	40m ³	R7	R7	R7	R7	5.4	5.4	5.4	0.0	5.4	—	
		うたず西公園(耐震性貯水槽)	小牧市	直	40m ³	R9	R9	R9	R9	5.4	5.4	5.4	0.0	5.4	—	
		文津1号調整池	小牧市	直	9,778m ³	R6	R8	R7	R8	1,132.9	592.0	592.0	0.0	592.0	—	
高質空間形成施設																
高次都市施設	地域交流センター															
	観光交流センター															
	テレワーク拠点施設															
	賑わい・交流創出施設															
	子育て世代活動支援センター															
	複合交通センター															
誘導施設	医療施設															
	社会福祉施設															
	教育文化施設	第一こども園(仮称)	小牧市	直	1,650m ²	R7	R8	R7	R8	944.0	290.0	290.0	0.0	290.0	—	
	子育て支援施設															
	元地の管理の適正化															
基幹的誘導施設																
既存建造物活用事業																
土地区画整理事業		小牧文津地区	小牧市	直	A=37.6ha	H10	R12	R7	R9	5,533.5	285.5	285.5	0.0	285.5	1.2	
		小牧岩崎山前地区	小牧市	直	A=62.2ha	H4	R11	R7	R9	3,799.4	445.0	445.0	0.0	445.0	1.1	
		小牧南地区	小牧市	直	A=94.0ha	H6	R11	R7	R8	8,190.0	536.6	536.6	0.0	536.6	1.2	
市街地再開発事業																
住宅街区整備事業																
バリアフリー環境整備事業																
優良建築物等整備事業																
住宅市街地総合整備事業																
街なみ環境整備事業																
住宅地区改良事業等																
都心共同住宅供給事業																
公営住宅等整備																
都市再生住宅等整備																
防災街区整備事業																
復興促進事業																
エリア価値向上整備事業																
こどもまんなかまちづくり事業																
合計										22,751.3	2,433.9	2,433.9	0.0	2,433.9	1.2	

提案事業														
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	交付期間内		交付対象 事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
地域創造 支援事業														
事業活用 調査	事業効果分析調査	—	小牧市	直	—	R9	R11	R9	R11	2.0	2.0	2.0	0.0	2.0
まちづくり活動推進 事業														
合計										2.0	2.0	2.0	0.0	2.0 …B

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

...C

0.0

42,685.8

面積	820	ha
----	-----	----

目、大
字小

820 ha

区域

目、大
字小

新訂三丁目、堀の内二丁目、小牧二丁目、小牧三丁目、小牧四丁目、小牧五丁目、中央一丁目、中央二丁目、中央三丁目、中央四丁目、中央六丁目、大字小、大字北山田鹿新田、東新町、柿崎、一応三丁目、桜井、応時三丁目、久保一色南二丁目、小牧原三丁目、大字大山(小牧)の西部と大字久保一色、久保一色南二丁目、久保本町、久保新町、田沼町、大字岩崎、大字小松等、大字大津、大字小牧原南、小牧原二丁目、小牧原西一丁目、大字東田、大字二重堀、中央五丁目、東一丁目、応時二丁目、応時四丁目、大字北山、大字南外山、新町二丁目、堀の内二丁目、堀の内三丁目、小牧一丁目、中央五丁目、応時四丁目、大字二重堀、常磐詣一丁目、常磐詣二丁目、桜井本部の一部



